

## 平成28年度 部局長マネジメント方針

はだ こうぞう  
下水道部長 葉田 晃三



### 仕事に対する基本姿勢

本市の公共下水道は、市民サービスを担う企業（地方公営企業）として、「経済性の発揮」と「公共の福祉の増進」を運営原則に事業の推進を図っています。平成25年4月より下水道事業の経営を市長から任された事業管理者のもと、企業会計方式の活用により財務情報の透明化に努め経営マインドの醸成を進めてまいりました。現在、人口減少社会に入り、地方財政の状況が厳しさを増す一方、施設の老朽化に伴う大量更新時代を迎えようとしている経営環境を踏まえ、公営企業として経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでまいります。

また、近年増加傾向である集中豪雨に対し、浸水被害の軽減に向けて継続的にハード対策を実施し、ソフト対策を組み合わせた総合的かつ緊急的な浸水対策に取り組んでまいります。

### 平成27年度の振り返り

本市の公共下水道は、昭和24年度に事業着手したことにより50年を経過する一部施設の老朽化が進行し、その対策が急務です。また、大規模地震による施設の被災で下水道がその機能を果たすことができなくなれば、代替機能のないライフラインとして市民生活に多大な影響を与えるなど耐震化が課題となっています。そこで、今後増えていく大量の更新（老朽化対策）と地震対策を効率的に進め、また、急増する経費に対し予算の平準化を図るため平成25年度に策定した「下水道総合地震対策計画」のもと、平成27年度より対策工事を実施いたしました。今後も引き続き継続的に施設の再構築を図ってまいります。

下水道による浸水の防除は、下水道が果たす重要な役割の一つです。近年は、豪雨の発生頻度の増加や台風の激化など、浸水に対するリスクが高まっています。既存管きよの排水能力を高めるため、平成3年度より実施している増補管事業では、全体計画に対し89%（平成27年度末）の進捗率となりました。また、昨今頻発するゲリラ豪雨対策として全庁的に取り組む「雨水対策プロジェクト推進会議」で策定した「総合雨水対策アクションプラン」に基づき、増補管などのハード対策と合わせ、ソフト対策としての啓発活動にも取り組んでまいりました。出前講座の実施やウェブサイトによる啓発、ケーブルテレビによる番組の放

映などを通して、豪雨に対する行動や備えを幅広く理解していただける取り組みを行いました。

## 平成28年度に取り組む重点課題

### 1 増補管事業等の推進（浸水対策）

本市が位置する寝屋川流域は、すり鉢状の地形であることから降った雨を下水道で集め、ポンプで河川に強制排水しなければならない厳しい地形条件となっています。元来より浸水被害が多く、その対策として流域内の市および国・府が協力して「総合治水」に取り組んでいます。これは、河川・下水道・流域内の市民、事業者が一体となって浸水対策に取り組むもので、「寝屋川流域水害対策計画」のもと治水対策施設の整備を推進しています。本市の下水道事業においても、下水道の計画年次が古い第二寝屋川以西の地域において、既存の下水管よりさらに地下深くにトンネル形態の「増補管」を整備し、排水能力を向上させることで浸水被害の軽減に取り組んでいます。この増補管事業も全計画延長のうち約9割の整備が完了し、被害の軽減に大いに寄与しているところです。

しかしながら、最近の世界的な気象変動により局所的な短時間豪雨（いわゆる「ゲリラ豪雨」）が頻発し、浸水被害の発生が増加傾向となっています。ゲリラ豪雨は、下水道などの計画規模を上回る豪雨のため、短時間で浸水被害に至る特徴があります。このことから、本市では、ハード面とソフト面から全庁的に検討を行い「東大阪市総合雨水対策アクションプラン」を策定し、公助・共助・自助の対策に取り組んでいるところです。



（写真：新大蓮幹線（増補管））

以上のことから、下水道事業においては、大阪府と連携して「総合治水」に取り組むとともに、「増補管事業」を引き続き実施し浸水被害の軽減に努めてまいります。さらに、「東大阪市総合雨水対策アクションプラン」に位置付けられている「増補管事業」などのハード対策だけでなく、ソフト対策としての啓発活動にも取り組んでまいります。

### 2 下水道施設の再構築

本市の下水道事業は、昭和24年に着手しほぼ概成いたしました。他のインフラ施設同様本市の下水道施設においても、老朽管きよなど老朽化施設が今後増加傾向となっています。長年の使用により劣化が進行し、管きよの破損などによる道路陥没事故の発生が全国的に懸

念されています。また、先の「東日本大震災」など大地震発生を教訓に、地震に備えた対策も課題となっています。下水道は、機能の代替手段のないライフラインであることから、市民生活への影響が懸念されるところです。

そこで、本市では、老朽化対策と耐震化対策を効率的かつ効果的に進めるため、「東大阪市下水道総合地震対策計画」を策定し、国の制度を活用しながら計画的に管きよなど施設の再構築を進めていく予定です。下水道ポンプ場などの根幹施設においては、耐震化対策とあわせて長寿命化対策を含めた改築を実施する予定です。「東大阪市下水道長寿命化計画」の策定により、国の制度を活用し、計画的に実施してまいります。

### 3 ラグビーワールドカップ2019への取り組み

2019年日本で開催される「ラグビーワールドカップ」の会場の一つに「東大阪市花園ラグビー場」が決定いたしました。

下水道事業においては、これまで「ラグビーのまち 東大阪」と下水道の普及促進をPRするため「ラグビーデザイン マンホールふた」を製作し、ラグビー場周辺の下水道整備に合わせて設置してきたところです。

ラグビーワールドカップ2019の花園ラグビー場開催決定を契機に、その機運を高め、さらなる下水道のPRを図るためにこのたび「RUGBY WORLD CUP 2019 デザインマンホールふた」にリニューアルいたしました（写真参照）。今後は、花園ラグビー場までのアクセス道路上に設置してあるマンホールふたを「RUGBY WORLD CUP 2019 デザインマンホールふた」に順次取り替えていく予定です。日本全国のみならず、全世界から観戦に訪れる多くの人々の目に触れることで「ラグビーのまち 東大阪」とさらなる下水道のPRをこの「RUGBY WORLD CUP 2019 デザインマンホールふた」で発信してまいります。

